

中高年化したニートを支える親の心配事

— 高齢者ケアに携わる専門職への実態調査 —

福岡裕美子^{※1}・駒井 裕子^{※2}・林 成蔚^{※3}

要旨：

社会的なつながりがほとんどない中高年化したニートを支える高齢の親の心配事を高齢者ケアに携わる専門職への実態調査から把握することを目的とした。S市社会福祉協議会が運営する介護保険サービス事業所で働くケアワーカーを対象にアンケート調査を実施した。調査期間は平成27年1月末から2月末。調査対象者数は146名。アンケート調査の内容は、①65歳以上の親（両親あるいは父親あるいは母親）と中高年化したニートが同居しているケースの担当の有無、②担当ケース数、③担当ケースの概要（自由記載）、④65歳以上の親の心配事（自由記載）の自記式質問紙にて実施した。倫理的配慮は、ケアワーカーが所属する事業所長への同意を得て、各ケアワーカーへのアンケート調査は回収をもって同意とみなした。倫理申請はT大学研究倫理審査の承認を得た。

アンケート調査の結果は、ここ1年で中高年化したニートがいるお宅を担当したことがあるケアワーカーは32名（43.8%）だった。担当ケースの概要が記載されていたのは23件だった。自由記載の内容は意味内容を変えずに1文節化してコード化し類似性のあるものにまとめた。その結果、親の心配事の内容は【親の年金に依存した生活】【ニートの病気の心配】【心理的負担感】【親の死後の生活の心配】【親戚への負い目】【親の過剰な保護】【助けてもらえる存在】【日常生活の不自由さ】というカテゴリに分類された。ケース概要の中にはニートから受けた相談の内容も含まれていた。内容は【親の介護の負担】【生活費の工面】というカテゴリに分類された。親以外の家族からの相談内容は【妹の行く末の心配】というカテゴリに分類された。

ニートを支える高齢の親の心配事を把握することができた。また、親の心配事に関する調査であったが、ニート本人から受けた相談の内容も含まれていた。その内容から、親の介護のために離職し、そのまま社会との接点を失ってしまったケースがほとんどであると推察された。

キーワード：中高年ニート、高齢の親、社会との接点

※1 ふくおかゆみこ 常葉大学健康科学部看護学科 教授
※2 こまいひろこ 常葉大学健康科学部看護学科 講師
※3 りんちえんうえい 常葉大学法学部法律学科 教授

Concern of Parent Who Support a Middle-Aged and Older NEET: The Actual Situation through Survey on Geriatric Care Experts

Yumiko FUKUOKA, Hiroko KOMAI, Chenwei LIN

Abstract:

This study clarify the actual situation of elderly parent support their middle-aged and older NEET (not in education, employment or training) who has no relation with the community through survey on geriatric care experts.

We took questionnaire survey on care-staff of Long-term care insurance services offices managed by S-city social welfare council. Study period was between the end of January and February on 2015.

146 people responded to this survey. the content of open-ended questionnaire was as follows, 1. Presence or absence of living case with parent or single-parent aged over 65 years old and their middle-aged and older NEET, 2. The number of charge, 3. Overview of the case (free writing), 4. Concern of parent over 65 years old (free writing).

Ethical consideration was that care-worker with their administrator's consent shall be deemed to have agreed to the Terms and Conditions by collecting the questionnaires. This study was carried out with the approval of the T-University Ethics Committee. 32 care-workers (43.8%) were responded who have charged the case with middle-aged and older NEET for about a year now. 23 cases provided the overview. The contents of free writing have divided each sentence without changing a meaning, corded and categorized with similarities.

As a results, the details of consultation raised by parent were categorized, "Life depend on parents' pension", "Concern of NEET's disease", "Psychological burden", "Concern of life after the death of parent", "Feeling of indebtedness toward relative", "Overprotection by Parent", "Existence can be helped", "Inconvenience in daily life". These of NEET, meanwhile, were categorized "Burden of caring for parent" and "Managing living expenses". The details of consultation raised by families outside parent was categorized "The fate of sister". This study, therefor, could grasp problem of elderly parent who support their NEET. Although we surveyed concern of parent, NEETs' details of consultation were also included.

The content suggests that NEET in most cases may quit his job to care elderly parent, and then lose contact with the community.

Keywords: middle-aged and older NEET, elderly parent, contact with the community

I. はじめに

ニートと呼ばれる、いわゆる就労時期にあっても働かない人たちの中には、既に初老期、老年期を迎え、中高年化している人もいる。彼らの生活を年金で支えている両親も高齢化し、親が亡くなった後の中高年化したニートの生活資金が絶たれ、社会とのつながりを持たない中高年化したニートの生活の継続が困難であることは容易に想像できる。総務省統計局労働力調査¹⁾によると、2012年45～54歳のニートは45万人を超えた。この世代は上限35歳までのニート対策から漏れた世代であり、その親は70～80歳代となっている。中高年化したニートの概念が十分検討されていないため、その実態や要因等が明らかにされているとは言い難い。

一方で、中高年化したニートの親が抱える問題もまた多様であることも予測できる。平成25年度高齢者白書²⁾によると、平成23年現在、65歳以上の高齢者のいる世帯は1,942万世帯であり、全世帯の41.6%を占めている。構成割合からみると、親と未婚の子のみの世帯と夫婦のみの世帯が増加傾向にあり、暮らし向きにあまり心配のない高齢者は約7割と、生活状況も安定しているという特徴がある。このデータからも、親が子を養っている可能性があることが推察できる。中高年化したニートを抱える親はいずれ自身の健康や生活を維持することが困難になり、ともに困窮する時期がそれほど遠くない将来に来る可能性も非常に高い。しかし、中高年化したニートは社会的つながりがほとんどなく、親も恥ずかしいことと捉え、相談する場もわからない場合が多い。働かず引きこもるだけであり、社会的問題として露見しないため、事例的データを収集し、分析を試みる先行研究はほとんど見いだせない。

本研究では、中高年化したニートを支える親の心配事を高齢者ケアに携わる専門職への実態調査を通し把握することを目的とする。

II. 用語の定義

西³⁾の報告から、中高年は35～59歳、ニートは「一般的に、無就業、無就学で、なおかつ職業訓練も受けていない人」と定義する。

III. 研究方法

1. 研究対象

S市社会福祉協議会へ所属する日常的に在宅部門で（訪問介護、通所介護、訪問入浴、訪問看護、居宅介護支援、短期入所生活介護など）高齢者ケアに携わる、介護福祉士、ホームヘルパー、訪問看護師、ケアマネジャー、社会福祉士などケアワーカー約146人。

2. 調査期間

平成27年1月末から2月末。

3. 研究デザイン

実態把握調査

4. アンケート内容：

アンケートの内容は、基本属性として、性別、年代、保有している専門資格、現在の職種、勤務し

ている介護保険サービス事業所の種類を聞いた。さらに、高齢の親に関する質問項目として、①65歳以上の親（両親あるいは父親あるいは母親）と中高年化したニートが同居しているケースの担当の有無、②担当ケース数、③担当ケースの概要（自由記載）、④65歳以上の親の心配事（自由記載）について自記式質問紙を作成した。

5. データ収集方法

S市社会福祉協議会へ所属するケアワーカーが所属する施設長へ研究の主旨と研究協力依頼を文書にて行った。所属するケアワーカーへは各事業所にて質問紙を配布してもらい、無記名自記式による回答後、郵送にて回収した。

6. 分析方法

アンケートは単純集計および、自由記載部分は自由記載の内容の意味内容を変えずに1文節化し、コード化して類似性のあるものに分類した。

7. 倫理的配慮

本研究はT大学の研究倫理審査の承認を得て実施した。調査への協力は自由意思であること、回答しなくても不利益を受けることはないこと、データは個人が特定されることがないように処理すること、データの管理は厳重に行うことを依頼文に明記し、回答をもって同意とみなした。

IV. 結果

1. アンケートの回収率

アンケート調査の回収率は、146票配布し回収が73票（回収率50%）だった。有効票は73票だった（有効票率100%）。

2. 対象者の属性

対象者の属性を、表1に示した。性別では、男性8名（11.0%）、女性65名（89.0%）だった。年代別では、20歳代3名（4.1%）、30歳代10名（13.7%）、40歳代20名（27.4%）、50歳代33名（45.2%）、60歳代7名（9.6%）であった。保有資格（複数回答）では最も多いのが介護福祉士で46名（63.0%）、次いで介護支援専門員の43名（58.9%）、ホームヘルパー30名（41.1%）であった。現在仕事をしている職種では最も多いのが、介護支援専門員の34名（46.6%）、次いで介護福祉士の11名（15.1%）、ホームヘルパー9名（12.3%）であった。現在の勤務先は

表1 回答者の基本属性 n=73

項目	カテゴリー	人数	%
性別	男性	8	11.0
	女性	65	89
年齢	20歳代	3	4.1
	30歳代	10	13.7
	40歳代	20	27.4
	50歳代	33	45.2
	60歳代	7	9.6
保有資格 (複数回答)	社会福祉士	5	6.8
	介護福祉士	46	63.0
	介護支援専門員	43	58.9
	生活相談員	3	4.1
	寮母	1	1.4
	ホームヘルパー	30	41.1
	介助員	3	4.1
	看護師	4	5.5
	准看護師	2	2.7
	理学療法士	0	0.0
	作業療法士	0	0.0
	言語聴覚士	0	0.0
	その他	15	20.5
現在仕事をしている職種	介護福祉士	11	15.1
	介護支援専門員	34	46.6
	生活相談員	3	4.1
	ホームヘルパー	9	12.3
	介助員	2	2.7
	看護師	3	4.1
	准看護師	1	1.4
	その他	10	13.7
現在勤務している 介護保険サービス 事業所	ケアマネセンター	33	45.2
	ヘルパーステーション	20	27.4
	訪問看護	2	2.7
	デイサービス	8	11.0
	訪問入浴	2	2.7
	その他	8	11.0

ケアマネセンター33名（45.2%）、次いでヘルパーステーション20名（27.4%）、デイサービス8名（11.0%）であった。

3. 65歳以上の親（両親あるいは父親あるいは母親）と中高年化したニートが同居しているケースの担当の有無について

ここ1年で中高年化したニートいるお宅を担当したことがあるケアワーカーは32名（43.8%）だった。内訳は、現在担当している人が10名（13.7%）、現在担当しているおよび過去に担当したことがある人は5名（6.8%）、過去に担当したことがある人は17名（23.3%）だった。

4. ケース概要および65歳以上の親の心配事（自由記載）について

担当ケースの概要が記載されていたのは23件だった。内訳は、高齢の親からの相談内容が17件、中高年化したニートからの相談内容が4件、中高年化したニートと同居する親以外の家族からの相談内容が2件だった。記載1件につき複数の相談内容が含まれているものもあった。記載内容を意味内容を変えずに文節ごとにコード化し分類した。総コード数は39であった。親の心配事に関するコード数は32コードであった。ニート本人からの相談を受けた内容に関するコード数は6であった。その他同居する親族が抱える問題についてのコードが1であった。

親の心配事内容は【親の年金に依存した生活】コード数5、【ニートの病気の心配】コード数4、【心理的負担感】コード数4、【親の死後の生活の心配】コード数9、【親戚への負い目】コード数2、【親の過剰な保護】コード数3、【助けてもらえる存在】コード数1、【日常生活の不自由さ】コード数4というカテゴリに分類された。

ニート本人からの相談内容もあった。その内容として【親の介護の負担】【生活費の工面】というカテゴリに分類された。

親以外の家族からの相談内容は【妹の行く末の心配】というカテゴリに分類された。

V. 考察

1. ケアワーカーの担当に関する実態

回収票のうちの43.8%のケアワーカーが中高年化したニートがいるお宅のケースを担当していた。今回の調査協力機関であるS市社会福祉協議会は、S市全域で介護保険サービス事業所を展開している。しかし、S市全域の介護保険サービスを担っているわけではない。

事業所の詳細は、訪問介護（ホームヘルパー）4ヶ所（出張所を含めると5ヶ所）、通所介護（デイサービス）4ヶ所、訪問入浴2ヶ所、訪問看護1ヶ所（出張所を含めると3ヶ所）、居宅介護支援（ケアマネジメント）6ヶ所、短期入所生活介護（ショートステイ）1ヶ所である。また、それら事業所の利用者数は平成26年度の利用実績のべ数は、訪問介護（ホームヘルパー）6,454名、通所介護（デイサービス）4,878名、訪問入浴601名、訪問看護は医療保険分と介護保険分を合わせて4,127名、居宅介護支援（ケアマネジメント）12,887名、短期入所生活介護（ショートステイ）275名であった。

S市には今回の調査協力機関のほかにも介護サービス事業所が多数あるのでこのようなケースを担当している数はもっとあるものと推測される。

2. 親の心配事について

親の主な心配事は、【親の年金に依存した生活】と【親の死後の生活の心配】であった。親は、子に収入が無いため生活費のやりくりが大変な状況があった。さらに親が施設等に入所した場合、子に収入がないので、どうやって生活をするのかと心配していた。親の年金に依存して生活しているとい

うことは、その親が死亡すると収入が途絶え生活を維持することが困難となる。【親の年金に依存した生活】が【親の死後の生活の心配】につながっているのである。親戚づきあいに関しても【親戚への負い目】を感じており、また、すでに付き合いがない状況もあった。

【ニートの病気の心配】では、精神疾患を抱え就業していなかったり、受診を勧めても、本人が病院に行かない場合もあった。

また、就労に関して、子は働けないと親が思っていたり、子に仕事をしてほしいがうまくいかない【親の過剰な保護】もうかがえた。一方で、親が認知症で子に助けてもらうことが多いという【助けてもらえる存在】となっている場合もあった。こうした場合はニートとはいえ、親の心理的サポートを担う存在となっていることは否めない。

今回の調査対象のケアワーカーからの回答は、高齢の親に対しての介護保険サービス提供のために訪問した際に受けた相談である。木村⁵⁾らは家族はニート・引きこもりの身近な支援者（客体）である一方で、家族自身も困難を抱えている要支援者（主体）であると指摘されるようになってきたと述べている。もはや家族単位の問題となっている。親への介護保険サービス提供で関わりを持ったケアワーカーがこうした情報を次にどのような専門職や機関へつなげるかということが重要であると考ええる。そのためには、今後は最初に情報を得たケアワーカーが遭遇した事例や情報に関して次はどこへつなげるかといった振り分ける知識を持つことも必要になるものと思われる。

また高齢の親が抱く思いや心配事を把握することで、共感的配慮を持ったかわりが可能になるものと考ええる。

3. ニート本人やニートの同居者からの相談内容

今回得られた回答の中に、ニート本人やニートの同居者から相談を受けたことがあるという内容があった。

ニート本人からの相談内容は【親の介護の負担】【生活費の工面】というカテゴリに分類できた。親の介護のための離職や、介護があるので就業できない、介護のために職種が制限されるという状況があった。さらに、無収入ゆえ、生活を親の年金でやりくりしており、介護保険サービスを今以上に利用したくても利用料金が支払えない状況があった。介護保険サービスを利用できない部分は家族が介護を担うことになり、場合によっては【親の介護の負担】につながっていくことが考えられる。

親の介護のために離職し、そのまま社会との接点を失ってしまったケースがほとんどであると推察された。このような場合もニートとくくってしまってもよいのかどうか検討する必要がある。一旦離職してしまうと、再就職は非常に難しい現状である。こうした人たちは介護経験を活かした仕事へ就労支援ができるようなシステムを考える必要があるのではないだろうか。

ニートの同居者からの相談内容は【妹の行く末の心配】ということで、ニートの妹の将来を心配するものであった。このケースのように、親の介護のみならず、同居している他の家族構成員も問題を抱えている場合もある。

V. おわりに

今回の調査で、ニートを支える高齢の親が抱える問題を把握することができた。また、親の心配事に関する調査であったが、ニート本人からの相談内容も含まれていた。

今後さらにS市内の介護保険サービス事業所の協力を得ることにより、さらにデータを積み重ねていくことができると考える。こうした試みがS市全体の中高年化したニートに関する実態や、その親が抱える問題について把握していくことができると考える。

この研究は平成26年度T大学共同研究費の助成を受けて実施したものである。

引用文献・参考文献

- 1) 総務省統計局, 労働力調査2014年1～3月 <http://www.stat.go.jp/data/roudou/sokuhou/4hanki/dt/> (2014年6月8日アクセス可能)
- 2) 内閣府, 平成25年度高齢者白書2013.
<http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2013/gaiyou/index.html> (2014年6月8日アクセス可能)
- 3) 西文彦: 中高年の無就業・無就学者の最近の状況, 労働政策研究・研修機構刊行「日本労働研究雑誌」, 11月号, 2011.
- 4) 厚生労働省, 地域包括ケアシステムの実現に向けて <http://www.stat.go.jp/data/roudou/sokuhou/4hanki/dt/> (2014年6月8日アクセス可能)
- 5) 木村和代, 松見咲子: [前編] ニート・引きこもり問題を抱える家族の類型化の重要性, NRIパブリックマネジメントレビュー, 1-6, vol.121, August, 2013.